

# (仮)宮代町の未来の教育

# (仮) 宮代町の未来の教育 まとめシート

## 1. 宮代町らしい教育の取組み

### ①環境教育

- ・現在は「身の回り」の教育、将来はもっと広く、中学へもつながるようにしたい。
- ・キッズISO を中学で行うことは難しい。マニュアルも、ゴールもない。
- ・「中級編」を活用するという方法がある。総合学習に組み入れる、という方法もある。
- ・自分たちがどのように進めていけばよいか、ということを支援する組織が必要。
- ・体系化するテキストを作る。
- ・学校だけで実践が困難であれば地域で支える仕組みがあっても良い
- ・大学・地域・父母・・・子どもは忙しいというが、方策はある。
- ・「宮代エコサミット」があり、「子ども環境会議(今年4年目、各学校2名の委員が中心になって校内エコ活動をやった)」さらに発展させたい。
- ・宿題を通した家庭学習の習慣づくり。

項目ごとに  
意見をまとめる

### ②多文化

- ・多文化の中で自分たちが生きるということ。
- ・学校教育の中では、英語教育を宮代独自のものとして展開したい。すべてを英語で話すということ。口づついで伝えていく。

### ③道徳教育

- ・宮代町が今取り組んでいる道徳教育。
- ・宮代町が作成した郷土教材を大事にする。(人を大事にし、格差のない、民主的な)
- ・小中学校7校間に学校差がなく、「あたりまえ」の教育をしていること。

### ④小中連携・一貫教育の充実と発展

- ・子ども・教科指導の一貫性をすすめる
- ・小中の連携は、各中学校区を中心に、特色のある連携を実践中。
- ・先生方が仲が良いのも連携の賜物
- ・中学生が小学生を教える機会も、共に育つきっかけ
- ・中学校の運動会へ小学校高学年の子たちが参加(鼓笛の演奏)

### ⑤宮代の子どもたちは町全体で育てる

- ・地域との連携、交流・支援のための公益団体組織づくりや組織・地域づくり

### ⑥異年齢交流の充実と発展

- ・掃除、遠足、休み時間など、上級生が下級生の面倒をよくみる機会、中学進学にもつながっていく。
- ・高学年は責任感を培う好機、低学年は高学年を頼り、良い関係につながる。
- ・少子化、兄弟の少ない現代では必要な取り組み

### ⑦宮代町の学校を超えた交流の推進

- ・小中学校と高校、大学、特別支援学校など

### ⑧子ども文化の交流

- ・綱引き大会、郷土かるた大会など、学校間交流
- ・俳句づくりで心豊かに

3

## 【宮代町の取組み】

- ・キッズ I S O
- ・宮代江戸の日
- ・子ども環境会議

## 【宮代町の取組み】

- ・小学校低学年からの英語教育（A L T 巡回、補助員配置）

## 【宮代町の取組み】

- ・道徳副読本「島村盛助」「どんぐりピアノ」を作成、活用
- ・「道徳の日（11月19日）」を定め、各種取組みを实践

## 【宮代町の取組み】

- ・各中学校区ごとに実践中

## 【意識調査結果】主に「自由意見」

- ・小学校→中学校へ同じ顔ぶれで進級できるので安心
- ・小学校→中学校の9年間同じ顔ぶれであるので、揉まれる機会がない

## 【宮代町の取組み】

- ・

## ⑨学校支援の仕組み

- ・登下校のパトロールに多数が参加
  - ・各校でサマースクールが実施されている。
  - ・図書を始め、ボランティアによる教育参加がある。
  - ・地域の方が読み聞かせをしている。
  - ・地域に大事にされている、守られていれば学校に対するイタズラも少なくなる。
  - ・学校を運営する上では、地域と共存していくことは大切。（苦情に発展しないことが大切）
  - ・卒業生の保護者が多いと心強い面も。
  - ・学校施設開放も地域連携のひとつ。
  - ・地域住民も招待して、地域一体で運動会をやるというのが魅力的。
  - ・学校が「地域コミュニティの中核」であってほしい、ということからコミュニティを吸収できないか。
  - ・児童生徒数の減少によりPTA会費も減。
  - ・予算が確保できず、先生が樹木消毒や剪定を実施。バザーへの期待度は高い。
  - ・組織づくり、PTA組織の他に「学校育成会」というものを設けている事例も。
- 地域ぐるみで学校を応援するもの。

【宮代町の取組み】

- ・学校応援団
- ・スクールガード
- ・町民みんなが先生制度

## 2. 通学区域・配置

### ① 1学年あたりの学級数

- ・中学校は4～6学級欲しい。教科指導の教員が複数配置されることが理想。
- ・複数の教科教員がいれば相談、連携ができる。
- ・学年が2～3学級になると、教科によっては配置1人になってしまう。芸術系の教員は、自分の授業＋総合などになる。今は、県の非常勤講師を配置されているが、曜日によっても限定されるため、難しい。管理上の問題とすると、難しい。
- ・学年全体を見るためには学年6学級が上限ではないか。
- ・体育の授業などには「偶数」学級がよい。
- ・クラス替えや、友人の充実が図れる規模が望ましい。
- ・児童生徒数が多くなれば、学校行事が盛り上がる。
- ・PTA会員の数も増加し、会費増収、人手増も期待できる。
- ・小学校では2学級は少なく、3学級が理想ではないか。

### ② 1学級あたりの児童生徒数

- ・学級数同様、相応の人数は必要
- ・現行国基準は「40人／学級」、小学1、2年生は「35人／学級」
- ・教育の質を確保するためには、「評価権」のある正規が望ましい。
- ・町費で教員を採用、加員して「30人学級」を実現するよう働きかけたい
- ・児童数減 清掃分担が行き届かない。
- ・生徒数が少なくなり、部活動の種類や部員の数が限られている。

### ③ 学校自由選択制

- ・現行の制度を存続する。
- ・但し、一部地域では隣近所で違う学校に通わせているケースもあり、地域コミュニティのくずれが懸念される面も。

### ④ 通学路・距離

- ・学校は「避難所」でもあるので、歩いていける距離が良い
- ・遠方となる場合は「スクールバス」導入も考えたい。
- ・昨今話題の「カミナリ」の安全対策ができないか。
- ・通学路として「車どおりの多い駅前」「五差路」のような危険箇所は回避したい。
- ・地域(こども110番の家)の協力が大事。
- ・PTAとして御礼をしたいが、「住所氏名非開示」とのこと。
- ・「こども110番の家」は、通学路上にないと効果が薄いのではないか。
- ・学校再編により通学路が長くなったりすると「110番の家」がのぞめない。
- ・小学校の登下校では「スクールガード」による見守りがあるが、中学校の登下校時間には対応できていない。特に、朝練や夕方日没後の中学生女子が心配。自転車でも狙われることがある。
- ・科学的な知恵を採ることも必要、これにより安全対策を進める。
- ・「安全対策」は今から実践できること。「機器」、「マンパワー」、「子どもに対する教育」が3つの柱。
- ・通学路ハザードマップの情報が地域に下りていない。
- ・「学校後援会」のような地域組織が必要ではないか。
- ・機器として、「携帯電話」は効果的。近く人家がない場合、連絡手段にもなる。
- ・携帯電話、スマートフォンは、安全利用のための「情報モラル教育」が必要。

【意識調査結果】望ましい学級数

単学級	小学校		中学校	
	保護者	教職員	保護者	教職員
	0%	0%	0%	0%
2	13	10	1	0
3	68	83	52	10
4	12	7	25	50
5	5	0	17	27
6	1	0	4	13
その他	1	0	1	0

【意識調査結果】望ましい1クラスの人数

	小学校		中学校	
	保護者	教職員	保護者	教職員
20人以下	4%	3%	2%	0%
21～25	31	41	16	0
26～30	47	53	46	12
31～35	15	3	31	58
36～40	3	0	5	30

【意識調査結果】「自由意見」から

- ・小中学校を選択できるのは良いこと
- ・決められた学区の学校に進むほうが安全、学校の人気格差もなくなるのでは

【意識調査結果】通学距離、時間の上限？

	小学生保護者	中学生保護者
通学距離	2kmまで	3kmまで
通学時間	30分まで	30分まで

## ⑤ 学校の場所

- ・学区の中心にあり、通学も安全。
  - ・町の端の方にあるため、不審者関係の問題も。
  - ・駅からの距離が近いと「電車を使った遠征」も便利。
  - ・小中学校が隣接していると「一貫教育」が容易、連携がとりやすい。
  - ・自然環境が多く、生き物に触れ合う機会多々。
  - ・住宅地内の小学校のため、近隣への音の配慮が必要なケースもある。
  - ・小学校→中学校、同じ児童が進学する場合、あまり緊張感をもたずに中学校へ。
  - ・複数小学校から進学する中学校は、人間関係をリセットして取り組める部分も。
- また、2つの小学校の良いところを取り入れることも可能。

【意識調査】 通学区域設定上の配慮事項？

	小学生保護者	中学生保護者
安全面への配慮	48%	48%
通学距離	38%	35%
バランス	11%	13%

### 3. 校舎と校庭

#### ①建物のつくり、校庭

- ・「木」を活用した校舎が良い
- ・木を活用した校舎は良いが、「耐震」など安全面が確保されていなければならない。
- ・子どもの記憶に残る建物の特徴
- ・建物構造により丈夫な体を育めないか
- ・校庭が広く、のびのびと生活ができている。学年を分けて活動できる。
- ・教育環境としては、全力でおもいっきりできる校庭が魅力(体力向上)。
- ・道路にボールが飛び出したり、民家の屋根に飛んでいかない環境。
- ・年数を経ており校舎の老朽化が著しい、雨漏りなど懸案事項多々。
- ・夏の暑さが増しており、エアコンが必要。
- ・児童生徒数の増減にも対応できる柔軟な構造が取れると良い。
- ・児童生徒の動線と地域利用の動線は分離する必要がある。
- ・「オープンスペース(廊下と教室の仕切りがないもの)」を取入れている学校もある。
- ・隣の教室の音が聞こえるため授業形態により向き、不向きはある。
- ・車両と子どもの動線交錯は回避したい。

#### ②安全・安心

- ・人(学校監視員の存在意義は大きい。)
- ・設備(防犯カメラ等)

#### ③他の施設機能

##### 【生涯学習の機能】

- ・学校に図書館機能があったらいいと思う。高齢化社会も背景として身近な場所にミディアムサイズの図書館があるといい。
- ・スタイルは要検討、牛久市のような「地域開放型」と、町立図書館を併設した「多機能型」のいずれか？
- ・牛久市では地域開放されていたが、幼児のための本は貸し出さない、とのこと。

##### 【子育ての機能】

- ・小学校に保育施設があればよいと思う。小学校を見る、小学校が見る。子どもの姿勢がいい。
- ・PTAの視点でも、一時保育を利用して小学校の中に保育園があると学校行事に参加しやすいのではないか。
- ・また学童と保育園の迎えも1回で済む。
- ・小1プロブレムが解決に向かうかもしれない。新しく子育てに向かうお母さんにとってもよかった。
- ・札幌市では、小学校の中に保育園がある。子ども園にすることもできる。子どもが同じ場所にいるだけで、親も学校で準備する。

##### 【地域との交流施設】

- ・陽だまりサロン。校内にお年寄たちとふれ合える場所がある。

【意識調査結果】優先して整備すべき施設・設備？

小学生保護者		中学生保護者		教職員 小学校		教職員 中学校	
①トイレなど	26%	①エアコン	27%	①トイレなど	24%	①エアコン	28%
②エアコン	25	②トイレなど	22	②エアコン	20	②トイレなど	19
③セキュリティ	21	③セキュリティ	19	③パソコン	17	③パソコン	17

【宮代町の取組み】H26小学校4校へ防犯カメラ設置予定

【意識調査結果】地域で利用される施設との連携・共存？

	小学生保護者	中学生保護者
良い	55%	51%
施設による	43	47
良くない	2	2

※「良くない」理由 …「安全面が心配」「学習に集中でくれないのでは？」

【意識調査結果】学校に併設したら良い機能？

	小学生保護者	中学生保護者
福祉サービス	21%	25%
子どものため	57	42
コミュニティ・生涯学習	20	31

【宮代町の取組み】

- ・各小学校に学童保育併設
- ・笠原小学校に「陽だまりサロン」「すだちの家」併設